

ユーザ ガイド



Cisco IMC PowerTool リリース 1.x

1. 概要
2. 管理情報モデル
3. システム要件
4. インストール
5. 例
6. サンプル関連する Cisco UCS マニュアルとマニュアル フィードバック
7. マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

1 概要

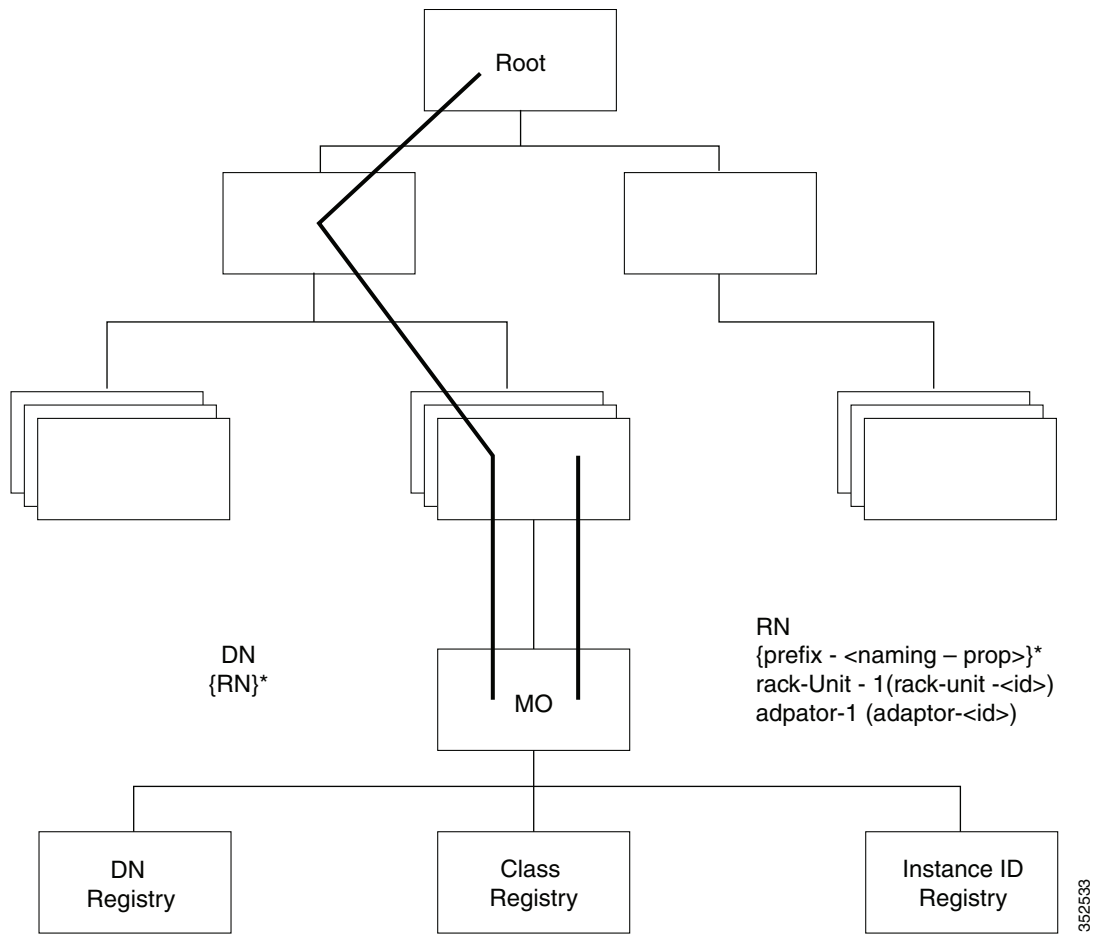
Cisco IMC PowerTool は、XML API を使用して Cisco UCS C シリーズ スタンドアロン ラックマウント サーバと Cisco UCS E シリーズ サーバの自動化を支援する PowerShell モジュールです。Cisco IMC PowerTool は既存の IT 管理プロセスやツールとの容易な統合を可能にします。

Cisco IMC PowerTool のコマンドレットは、Cisco IMC 管理情報ツリー (MIT) で機能します。コマンドレットを使用して、ツリーの管理対象オブジェクト (MO) に対するアクションを作成、変更、または削除できます。

2 管理情報モデル

Cisco C シリーズ および E シリーズ サーバを構成するすべての物理および論理コンポーネントは、管理情報ツリー (MIT) と呼ばれる階層的な管理情報モデル (MIM) で表されます。ツリー内の各ノードは、識別名 (DN) で識別される管理対象オブジェクト (MO) を表します。[図 1](#)を参照してください。

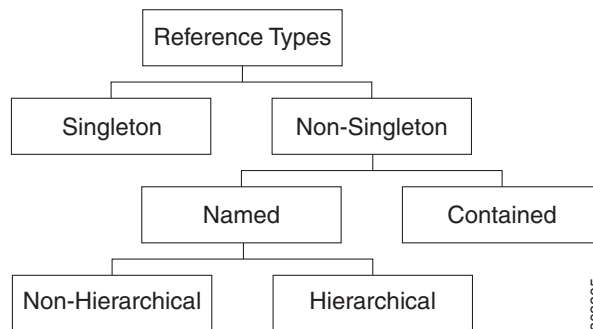
図1 管理情報モデル



管理対象オブジェクト

管理対象オブジェクト (MO) (図2を参照)は、CPU、DIMM、アダプタカード、ファン、電源装置などの Cisco IMC MIT リソースを抽象化したものです。管理対象オブジェクトは、Cisco IMC MIT で設定または管理される物理エンティティまたは論理エンティティを表します。たとえば CPU、DIMM、アダプタカード、ファンなどの物理エンティティと、ユーザ、通信サービス (HTTP、SSH など) などの論理エンティティが MO として表わされます。

図2 管理対象オブジェクト



それぞれの MO は、識別名 (DN) によってツリー内で特定でき、相対名 (RN) によって親のコンテキスト内で特定できます。DN は、MIT での MO の位置を識別します。DN は、ルートから開始してその MO 自身までのすべての相対名を連結したものです。基本形は、DN = [RN]/[RN]/[RN]/.../[RN] です。

次の例では、DN はモデル内の adapter-1 の完全修飾名を示しています。

```
< dn = "sys/rack-unit-1/adaptor-1" />
```

上記の DN は次の RN で構成されます。

```
topSystem MO: rn="sys" computeRackUnit MO: rn="rack-unit-1" adaptorUnit MO: rn ="adaptor-<id>"
```

相対名 (RN) には、MO のプロパティの 1 つ以上の値を組み込むことができます。これによって、親のコンテキスト内で同じタイプの複数の MO を区別することができます。前述したような RN の一部を成すプロパティは、Naming プロパティと呼ばれます。

たとえば、アダプタ MO が 1 つのラック ユニット MO の下にあります。アダプタ MO には RN の一部としてアダプタの ID 情報 (adaptor-[Id]) が含まれるので、ラック ユニットのコンテキスト内で各アダプタ MO を個別に識別できます。

3 システム要件

Cisco IMC PowerTool をインストールする前に、システムが次の要件を満たしていることを確認します。

- Windows PowerShell 2.0 以降がシステムにインストールされている必要があります。
- .NET Framework バージョン 2.0 SP1 以降

Cisco IMC

Cisco IMC PowerTool は、Cisco IMC の次のリリースと互換性があります：

- リリース 1.5 以降 (C シリーズ サーバの場合)
- リリース 2.2(1) 以降 (E シリーズ サーバの場合)

Windows PowerShell の要件

- Cisco IMC PowerTool を使用するには、システムに Windows PowerShell v2.0 以降がインストールされている必要があります。
- 特定の Windows PowerShell の要件については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

インストール要件

- Cisco IMC PowerTool をインストールする前に、次の作業を実行する必要があります。
- ロードされた PowerTool モジュールで動作中の PowerShell のインスタンスは閉じてください。
- Cisco IMC PowerTool ベータ版をアンインストールします。

Methods

Cisco UCS XML API は、システムの管理および監視に使用されます。次の方式がサポートされています。

- 認証。
- aaaLogin: 初期ログイン方式。
- aaaRefresh: 現在の認証 Cookie を更新します。
- aaaLogout: 現在のセッションを終了し、対応する認証 Cookie を非アクティブ化します。
- configResolveDn: DN によりオブジェクトを取得します。
- configResolveClass: 該当するクラスのオブジェクトを取得します。

- configResolveChildren: オブジェクトの子オブジェクトを取得します。
- configResolveParent: オブジェクトの親オブジェクトを取得します。
- configConfMo: 1 つの管理対象オブジェクト (例: DN) に影響します。
- eventSubscribe: イベントに対して登録します。

Cisco IMC PowerTool マッピング

約 10 の Cisco IMC PowerTool コマンドレットが、MO 仕様から生成されます。名詞がタイプ代わりに使用されます (EquipmentFan の代わりに Fan など)。コマンドレットの Get、Add、Set、Remove、またはサブセットが、さまざまな MO タイプに対して生成されます。すべてのコマンドレットは、XML 要求および応答を画面にダンプする XML パラメータをサポートします。

Add コマンドレット: 指定されたプロパティ値とともに MO ステータス「created」で ConfigConfMo メソッドを使用します。Force パラメータが指定されている場合、確認を求めるプロンプトは表示されません。

Get コマンドレット: ConfigResolveClass メソッドを使用して MO を取得します。Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバの XML API では、フィルタはサポートされていません。したがって、プロパティパラメータが指定されている場合、PowerTool は指定されたクラスのすべてのインスタンスを取得し、それらのインスタンスをクライアント側でプロパティ値を使用してフィルタリングします。

Set コマンドレット: 指定されたプロパティ値とともに MO ステータス「modified」で ConfigConfMo メソッドを使用します。Force パラメータが指定されている場合、確認を求めるプロンプトは表示されません。

Remove コマンドレット: MO ステータス「deleted」で ConfigConfMo メソッドを使用します。Force パラメータが指定されている場合、確認を求めるプロンプトは表示されません。

次の表は、特定の verb に指定できるプロパティのリストです。

プロパティ	Get	Add	Set
名前付け	Yes (位置指定)	Yes (位置指定)	No
Create-Only	Yes	Yes	No
Read-Write	Yes	Yes	Yes
Operational/ Read-Only	Yes	No	No

次の表は、対応するコマンドレットのパイプラインに渡すことができるタイプのリストです。

Verb/タイプ	パイプラインの入力
Get	Singleton — Non-Singleton なし — 親タイプ
Add	Singleton — Non-Singleton なし — 親タイプ
Set	Naming プロパティがある MO — Naming プロパティがない同一タイプの MO — 同一タイプまたは親タイプ
Remove/Clear	同一タイプ

次の表は、必要な XML 要求を生成するために呼び出されるメソッドを示します。

コマンドレット	方式
Add-Imc ¹ Set-Imc ¹	ConfigConfMo
Get-Imc ¹	ConfigResolveClass およびクライアント側 フィルタ
Get-ImcManagedObject -ClassId	ConfigResolveClass
Get-ImcManagedObject -ClassId -Dnlist	ConfigResolveClass(一致する DN を検出するた め出力がフィルタリングされます)
Get-ImcManagedObject -Dn	ConfigResolveDn
Connect-Imc	AaaLogin
Disconnect-Imc	AaaLogout
バックグラウンド ¹	AaaRefresh
Get-ImcChild	ConfigResolveChildren

1. これはコマンドレットではありません。これはバックグラウンド サービスです。

Get-ImcCmdletMeta は、MO タイプ、対応する名詞、サポートされる Verb、MO のプロパティ、プロパティの詳細(タイプ(Naming、Read/Write など)やプロパティが導入された Cisco IMC のバージョンなど)を調べるのに有効なコマンドレットです。

4 インストール

C シリーズでは Cisco IMC バージョン 1.5 以降、E シリーズでは Cisco IMC バージョン 2.1(1) 以降がサポートされています。

はじめる前に

- PowerShell v2.0 以降がシステムにインストールされていることを確認してください。
- ロードされた Cisco IMC PowerTool モジュールで動作中の PowerShell のインスタンスは閉じてください。

インストール

ステップ 1 インストーラをダウンロードし、起動します。

ステップ 2 (任意)デスクトップにショートカットを追加するには、[Create Shortcut] を選択します。

使用する前に

ステップ 1 デスクトップショートカットから **IMC PowerTool** を起動します。

ステップ 2 Cisco UCS PowerTool でサポートされるすべてのコマンドレット、機能、およびエイリアスを表示します。

```
Get-Command -Module CiscoImcPs  
Get-Command -Module CiscoImcPs | group CommandType  
Get-Command -Module CiscoImcPs | measure
```

ステップ 3 Cisco UCS C シリーズ サーバおよび E シリーズ サーバに接続します。

```
$handle = Connect-Imc <ip or hostname> -NotDefault
```



注 デフォルトでは、ログイン後に Cisco UCS ハンドルがデフォルトの Cisco UCS C シリーズおよび E シリーズ サーバのリストに追加されます(ただし `-NotDefault` オプションが指定されている場合を除きます)。Cisco UCS C シリーズおよび E シリーズ サーバで実行するすべてのコマンドレットには、ハンドルが指定可能な `-Imc` パラメータを指定できます。

ステップ 4 プロキシを使用して Cisco UCS C シリーズ および E シリーズ サーバに接続します。

```
$proxy = New-Object System.Net.WebProxy
$proxy.Address = "http:\\<url>:<port>"
$proxy.UseDefaultCredentials = $false
$proxy.Credentials = New-Object System.Net.NetworkCredential("<user name>", "<password>")
$handle = Connect-Imc <ip or hostname> -Proxy $proxy
```

ステップ 5 次のコマンドレットを使用します。

a. Cisco C シリーズ サーバと E シリーズ サーバから統合ステータス情報を取得します。

```
Get-ImcStatus -Imc $handle
```

b. C シリーズ ユニットのインベントリ サマリを取得します。

```
Get-ImcRackUnit -Imc $handle
```

c. 接続を切断します。

```
Disconnect-Imc -Imc $handle
```

デフォルトの Cisco UCS

ハンドルまたは名前が指定されていない場合、Cisco UCS C シリーズ サーバと E シリーズ サーバのハンドルが *DefaultImc* サーバ リストに追加されます(ただし `-Imc` パラメータが指定されている場合を除きます)。パイプラインの最初のコマンドレットは、デフォルトの UCS リストで実行されます。

UCS C シリーズ ラック サーバに接続します。

```
Connect-Imc <ip or hostname>
```

デフォルトのラック サーバを取得します。

```
Get-ImcPSSession
```

ステータス情報およびラック サーバの CIMC バージョンを取得します。

```
Get-ImcStatus
```

ラック サーバの物理ユニットに関する情報を取得します。

```
Get-ImcRackUnit
```

ラック サーバで HTTP を有効にします。

```
Get-ImcHttp | Set-ImcHttp -AdminState enabled
```

ラック サーバで HTTP を無効にします。

```
Get-ImcHttp | Set-ImcHttp -AdminState disabled
```

ラック サーバを接続解除します。

```
Disconnect-Imc
```

複数の UCS を使用した UCS デフォルト リスト

Cisco IMC PowerTool コマンドレットは、複数のハンドルを指定すれば複数の Cisco UCS C シリーズ ラック サーバで実行できます。

Cisco UCS C シリーズ サーバおよび E シリーズ サーバに接続します。

```
$handle1 = Connect-Imc <ip1> -NotDefault
$handle2 = Connect-Imc <ip2> -NotDefault
Get-ImcStatus -Imc $handle1,$handle2
Disconnect-Imc -Imc $handle1,$handle2
```

デフォルトでは、複数の Cisco UCS C シリーズ ハンドルは DefaultImc では許可されません。Set-UcsPowerToolConfiguration コマンドレットを使用して、この制限を上書きできます。

```
Get-ImcPowerToolConfiguration
Set-ImcPowerToolConfiguration -SupportMultipleDefaultImc $true
Connect-Imc <ip1>
Connect-Imc <ip2>
Get-ImcStatus
Disconnect-Imc
```

同じログイン資格情報を使用して複数の Cisco C シリーズ サーバおよび E シリーズ サーバに接続します。

```
$user = "<username>"
$password = "<password>" |
    ConvertTo-SecureString -AsPlainText -Force
$cred = New-Object System.Management.Automation.PSCredential($user, $password)
$servers = @("<Imc1>", "<Imc2>", "<Imc3>")
Connect-Imc $servers -Credential $cred
```

資格情報の読み取り/書き込み

```
Connect-Imc <ip1>
Connect-Imc <ip2>
```

資格情報はファイルに保存できます。保存された資格情報は、指定されたキーで暗号化されます。

```
Export-ImcPSSession -LiteralPath C:\work\labs.xml
Disconnect-Imc
```

ログインはファイルに保存されている資格情報から開始できます。

```
Connect-Imc -LiteralPath C:\work\labs.xml
```

ファイルに保存されている資格情報でログイン中にプロキシを指定します。

```
$proxy = New-Object System.Net.WebProxy
$proxy.Address = "http://<url>:<port>"
$proxy.UseDefaultCredentials = $false
$proxy.Credentials = New-Object System.Net.NetworkCredential("<user name>", "<password>")
Connect-Imc -LiteralPath C:\work\lab.xml -Proxy $proxy
```

追加システムにログインし、ファイルに資格情報を追加します。

```
Connect-Imc <ip3>
Export-ImcPSSession -Path C:\work\lab.xml -Merge
```

SSL の処理

ユーザが Cisco UCS C シリーズ サーバおよび E シリーズ サーバに接続し、サーバが有効な資格情報を認識できない場合、接続の確立は `InvalidCertificateAction` の設定に依存します。`InvalidCertificateAction` はデフォルトで無視するように設定されています。デフォルトでは、Cisco IMC PowerTool は、証明書が無効かどうかにかかわらず接続を確立するように設定されています。

`Set-UcsPowerToolConfiguration` コマンドレットを使用して、この設定を上書きできます。

```
Get-ImcPowerToolConfiguration
Set-ImcPowerToolConfiguration -InvalidCertificateAction Fail
```

次の表に、証明書の有効性を確認するためのオプションを示します。

	説明
Fail	証明書が無効な場合、コマンドレットは接続を確立しません。
Ignore	コマンドレットは、証明書が無効かどうかにかかわらず接続を確立します。
デフォルト	(Windows デフォルト) 証明書が有効な場合、コマンドレットは接続を確立します。

エイリアス

便宜上、いくつかのエイリアスが定義されています。すべてのエイリアスの一覧を表示するには、次のコマンドレットを実行します。

```
gal | ? { $_.Name -like "*-Imc*" } | select Name
```

次の表に、エイリアスと対応するコマンドレットを示します。

エイリアス	コマンドレット
<code>Add-ImcMo</code>	<code>Add-ImcManagedObject</code>
<code>Disable-ImcLocatorLed</code>	<code>Set-ImcLocatorLed -AdminState off</code>
<code>Enable-ImcLocatorLed</code>	<code>Set-ImcLocatorLed -AdminState on</code>
<code>Get-ImcMo</code>	<code>Get-ImcManagedObject</code>
<code>Remove-ImcMo</code>	<code>Remove-ImcManagedObject</code>
<code>Reset-ImcServer</code>	<code>Set-ImcRackUnit -AdminPower hard-reset-immediate</code>
<code>Restart-ImcServer</code>	<code>Set-ImcRackUnit -AdminPower cycle-immediate</code>
<code>Set-ImcMo</code>	<code>Set-ImcManagedObject</code>
<code>Start-ImcServer</code>	<code>Set-ImcRackUnit -AdminPower up</code>
<code>Stop-ImcServer</code>	<code>Set-ImcRackUnit -AdminPower soft-shut-down</code>

5 例


以降の例は、コマンドレットの実行方法を示しています。

- [ユーザの追加](#)
- [IP ブロッキングの有効化](#)
- [NTP の設定](#)
- [Syslog 設定の変更](#)
- [SoL の設定](#)
- [ブート順序の設定](#)
- [vMedia の設定](#)

- アダプタおよびコントローラの情報取得
- トランザクション サポート
- 管理対象オブジェクトの同期
- フィルタ
- HUU ファームウェアの更新
- Cisco IMC ファームウェアの更新
- Cisco IMC ファームウェアのアクティブ化
- 仮想ドライブの作成
- ブートドライブの設定
- ブートドライブのクリア
- PowerTool コマンドレットの生成
- BIOS パスワードの設定
- サーバの操作

ユーザの追加

```
Get-ImcLocalUser -Id 9 | Set-ImcLocalUser -Name "admin" -pwd "Password" -AccountStatus "active" -Priv "admin"
```

 **注** `Clear-ImcLocalUser` は、ステータスを非アクティブに変更するだけであり、ユーザやデータの削除は行いません。

IP ブロッキングの有効化

```
Get-ImcIpBlocking | Set-ImcIpBlocking -Enable "yes"
```

NTP の設定

```
Get-ImcNtpServer | Set-ImcNtpServer -NtpEnable "yes" -NtpServer1 1.1.1.1 -Force
```

Syslog 設定の変更

```
Get-ImcSyslog | Set-ImcSyslog -LocalSeverity warning -RemoteSeverity debug -Force
```

SoL の設定

```
Get-ImcSolif -Dn "sys/rack-unit-1/sol-if" | Set-ImcSolIf -AdminState "enable" -Speed "57600" -Force
```

ブート順序の設定

```
Get-ImcLsbootStorage | Set-ImcLsbootStorage -Order 2 -Force
```

vMedia の設定

```
Get-ImcCommVMedia | Set-ImcCommVMedia -AdminState "enabled" -EncryptionState "enabled" -Force
```

アダプタおよびコントローラの情報取得

PCI アダプタのプロパティ

```
Get-ImcPciEquipSlot -Id "1"
```

ネットワーク アダプタ情報

```
Get-ImcNetworkAdapterEthIf -Dn "sys/rack-unit-1/network-adapter-L/eth-1"
```

ストレージ コントローラ情報

```
Get-ImcStorageController -Dn "sys/rack-unit-1/board/storage-SAS-SLOT-4"
```

トランザクション サポート

トランザクションを開始する

```
Start-ImcTransaction
```

操作を実行する。

```
$adaptorHostEthIf = Get-ImcAdaptorUnit | Add-ImcAdaptorHostEthIf -Name AdaptorHostEth
$adaptorHostEthIfModify = $adaptorHostEthIf | Set-ImcAdaptorHostEthIf -PxeBoot enabled
$adaptorEthISCSIProfile = $adaptorHostEthIfModify | Add-ImcAdaptorEthISCSIProfile -InitiatorName AdaptorHostEth
-InitiatorIPAddress xx.xx.xx.xx -InitiatorSubnetMask 255.255.255.0 -DhcpISCSI enabled
$adaptorEthISCSIProfile | Remove-ImcAdaptorEthISCSIProfile
$adaptorHostEthIfModify | Remove-ImcAdaptorHostEthIf
```

トランザクションを修了する。

```
Complete-ImcTransaction
```

トランザクションを取り消す。

```
Undo-ImcTransaction
```

管理対象オブジェクトの同期

複数の CIMC に接続するため SupportMultipleDefaultImc を有効にする。

```
Set-ImcPowerToolConfiguration -SupportMultipleDefaultImc $true
```

資格情報を取得して変数に格納する。

```
$secpasswd = ConvertTo-SecureString password -AsPlainText -Force
$mycreds = New-Object System.Management.Automation.PSCredential ("admin",$secpasswd)
```

異なる CIMC に接続する。

```
$cimc1 = Connect-Imc xx.xx.xx.xx -Credential $mycreds
$cimc2 = Connect-Imc xx.xx.xx.xx -Credential $mycreds
```

異なる CIMC からローカル ユーザを取得する。

```
$user1 = Get-ImcLocalUser -Imc $cimc1 -Id 1
$user2 = Get-ImcLocalUser -Imc $cimc2 -Id 1
```

CIMC2 から CIMC1 へ MO セットを同期する。

```
Compare-ImcManagedObject $user1 $user2
Sync-ImcManagedObject (Compare-ImcManagedObject $user1 $user2) -Imc $cimc1
```

フィルタ

Type が「SEL」または「Syslog」に等しい SysdebugMEpLog 管理対象オブジェクトを取得する。

```
Get-ImcRackUnit | Get-ImcMgmtController | Get-ImcSysdebugMEpLog -Filter '(type -ilike SEL) -or (Type -clike Syslog)'
```

#(Type が「SEL」または「Syslog」に等しく)かつ Id が「0」に等しく、Type が「SEL」に等しい SysdebugMEpLog 管理対象オブジェクトを取得する。

```
Get-ImcRackUnit | Get-ImcMgmtController | Get-ImcSysdebugMEpLog -Filter '(type -ilike SEL) -or (Type -clike Syslog)' -Id 0 -Type SEL
```

名前に「admin」(大文字と小文字を区別)が含まれるローカルユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'Name -clike admin'
```

名前に「test*」(* 正規表現をサポート/大文字と小文字を区別)が含まれるユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'Name -clike test*'
```

AccountStatus が inactive 以外のローカルユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'AccountStatus -cne inactive'
```

AccountStatus が「inacti」に一致するローカルユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'AccountStatus -cmatch inacti'
```

AccountStatus が「active」に一致する(active で始まる/大文字と小文字を区別)ローカルユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'AccountStatus -cmatch ^active'
```

AccountStatus が「active」に一致しない(active で始まる/大文字と小文字を区別)ローカルユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'AccountStatus -cnotmatch ^active'
```

AccountStatus に「active」が含まれない(active で始まる/大文字と小文字を区別)ローカルユーザを取得する。

```
Get-ImcManagedObject -ClassId aaaUser -Filter 'AccountStatus -cnotlike active'
```

HUU ファームウェアの更新

ユーザ資格情報を作成する

```
$user = "<username>"
$password = "<password>"
$cred = New-Object System.Management.Automation.PSCredential($user,$password)
```

HUU ファームウェアを更新する

```
Set-ImcHuuFirmwareUpdater -AdminState trigger -MapType nfs -RemoteIp 10.105.219.83 -RemoteCredential $cred-RemoteShare "/huuIso/ucs-c2x-huu-2.0.3d-1.iso" -StopOnError yes -TimeOut 60 -UpdateComponent All-VerifyUpdate no -force -Xml
```

Cisco IMC ファームウェアの更新

ユーザ資格情報を作成する

```
$user = "<username>"
$password = "<password>"
$cred = New-Object System.Management.Automation.PSCredential($user,$password)
```

Cisco IMC ファームウェアを更新する

```
Get-ImcFirmwareUpdatable -Type blade-controller | Set-ImcFirmwareUpdatable -AdminState trigger -Type blade-controller -Protocol ftp -RemoteServer "10.65.183.111" -RemotePath "/UcseBin/UCSE_CIMC_2.3.1.bin"-RemoteCredential $cred-Force
```

Cisco IMC ファームウェアのアクティブ化

```
Get-ImcFirmwareBootDefinition -Type "blade-controller" | Get-ImcFirmwareBootUnit | Set-ImcFirmwareBootUnit-AdminState trigger -Image backup -ResetOnActivate yes -Force
```

仮想ドライブの作成

未使用の物理ドライブを使用して仮想ドライブを作成する

```
Get-ImcStorageVirtualDriveCreatorUsingUnusedPhysicalDrive | Set-ImcStorageVirtualDriveCreatorUsingUnusedPhysicalDrive -AdminState trigger -size "400 MB" -DriveGroup "[2]" -RaidLevel 0 -VirtualDriveName "vd_111" -Force
```

仮想ドライブグループを使用して仮想ドライブを作成する

```
Get-ImcStorageVirtualDriveCreatorUsingVirtualDriveGroup | Set-ImcStorageVirtualDriveCreatorUsingVirtualDriveGroup -AdminState trigger -VirtualDriveName "vd_New"-SharedVirtualDriveId "3" -Size "100 MB" -Force
```

ブートドライブの設定

物理ドライブをブートドライブとして設定する

```
Get-ImcStorageLocalDisk -Id 2 | Set-ImcStorageLocalDisk -AdminAction "set-boot-drive" -Force
```

仮想ドライブをブートドライブとして設定する

```
Get-ImcStorageVirtualDrive -Id 2 | Set-ImcStorageVirtualDrive -AdminAction "set-boot-drive" -Force
```

ブートドライブのクリア

```
Get-ImcStorageController | Set-ImcStorageController -AdminAction "clear-boot-drive" -Force
```

PowerTool コマンドレットの生成

ConvertTo-ImcCmdlet:

Cisco IMC の GUI では、XML ロギングがサポートされていません。コマンドレットを生成するため、ConvertTo-IMC コマンドレットは Get コマンドレットの出力を使用し、同じオブジェクト階層を複製するためのコマンドレットを生成します。

指定されている MO のコマンドレットを生成する。

```
Get-ImcBiosSettings -Hierarchy | ConvertTo-ImcCmdlet
```

コマンドレットの出力をファイルに保存する。

```
Get-ImcBiosSettings -Hierarchy | ConvertTo-ImcCmdlet -OutputPath "C:/OutputFile.txt"
```

BIOS パスワードの設定

Get-ImcBiosPassword | Set-ImcBiosPassword -Password "<password>" -Force



注 BIOS パスワード設定機能は、E シリーズ サーバだけに適用されます。

サーバの操作

サーバを操作するために追加された新しいエイリアスを次に示します。

操作の説明	PowerTool リリース 1.3.1 以前の コマンドレット	PowerTool 1.4.1 以降のコマンドレット
Power On Server	Get-ImcServer Set-ImcRackUnit -AdminPower up	Get-ImcServer Start-ImcServer
Power Off Server	Get-ImcServer Set-ImcRackUnit -AdminPower soft-shut-down	Get-ImcServer Stop-ImcServer
Power Cycle Server	Get-ImcServer Set-ImcRackUnit -AdminPower cycle-immediate	Get-ImcServer Restart-ImcServer
Hard Reset Server	Get-ImcServer Set-ImcRackUnit -AdminPower hard-reset-immediate	Get-ImcServer Reset-ImcServer
Turn On Locator LED	Get-ImcLocatorLed Set-ImcLocatorLed -AdminState on	Get-ImcLocatorLed Enable-ImcLocatorLed
Turn Off Locator LED	Get-ImcLocatorLed Set-ImcLocatorLed -AdminState off	Get-ImcLocatorLed Disable-ImcLocatorLed

6 サンプル

Cisco IMC PowerTool を使用して開発されたサンプル スクリプトは、間もなく communities.cisco.com で公開される予定です。

7 Cisco UCS コミュニティ

Cisco UCS コミュニティ はシスコの製品およびテクノロジーについての議論、情報共有、学習のためのプラットフォームです。パートナー エコシステムとの UCS 統合に関連するブログ、ディスカッション フォーラムおよびドキュメントについては、<https://communities.cisco.com/ucsintegrations> を参照してください。

8 関連する Cisco UCS マニュアルとマニュアルフィードバック

詳細については、次のリンクから関連資料を参照できます。

- [Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)
- [Cisco IMC XML API Programmer's Guide for Cisco UCS C-Series Servers](#)
- [Cisco UCS E-Series Documentation Roadmap](#)
- [Cisco IMC XML API Programmer's Guide for Cisco UCS E-Series Servers](#)

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載漏れに関する報告は、ucs-docfeedback@external.cisco.com に送信してください。ご協力をよろしくお願いいたします。

9 マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。
<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.